



← 池田ダム

早明浦ダムと連携し、吉野川総合開発の要として香川用水と吉野川北岸用水に分水する役割を担う。ダム湖は水上スポーツの拠点として人気

→新宮ダム

愛媛県四国中央市、吉野川水系の銅山川最下流部にあり、洪水調節と愛媛分水、発電を担う。ダム湖には名前がなかったが、50周年を記念して、「きりのもり湖」と命名されました



TOPICS

吉野川上流域の早明浦ダム、池田ダム等の統合管理開始から半世紀。吉野川総合開発50周年を記念して、四国4県より流域関係者が集まり、記念式典が開催されました



総貯水容量316百万m<sup>3</sup>を誇る“四国の水がめ” 早明浦ダム

洪水を防ぎ、かつ、豊富な水資源を活用しようという「吉野川総合開発計画」により、昭和48年(1973)に早明浦ダム、翌年に池田ダム、昭和50年(1975)に新宮ダムが完成。同年4月、これら吉野川ダム群の統合管理がスタートしました。高知分水、香川用水、吉野川北岸用水、旧吉野川河口堰などの水利用施設も次々と完成し、ダムで貯めた吉野川の水は四国4県へと分水されて、水道や農業用水、工業用水として安定して利用できるようになりました。

吉野川は高知県の瓶ヶ森に源を発し、総延長194km、流域面積は四国の2割を占めるという四国最大の大河です。豊富な水は流域のいのちや産業を支えてきました。一方、「四国三郎」の異名をとる暴れ川でもあり、流域、特に徳島県は洪水被害に苦しめられてきました。

洪水を防ぎ、かつ、豊富な水資源を活用しようという「吉野川総合開発計画」により、昭和48年(1973)に早明浦ダム、翌年に池田ダム、昭和50年(1975)に新宮ダムが完成。同年4月、これら吉野川ダム群の統合管理がスタートしました。高知分水、香川用水、吉野川北岸用水、旧吉野川河口堰などの水利用施設も次々と完成し、ダムで貯めた吉野川の水は四国4県へと分水されて、水道や農業用水、工業用水として安定して利用できるようになりました。

令和7年(2025)は、この統合管理から50年。11月16日、水源地域の高知県本山町に国や県、流域関係者約160名が集まり、吉野川総合開発50周年記念式典が開催されました。「水源」と受益地が互いに思いやり、ともに歩んできた50年間だった」という国土交通省水管理・国土保全局長の宮武晃司さんの挨拶の後、流域関係者から感謝のメッセージが寄せられました。長年にわたり水源地域と交流しているNPO法人新町川を守る会からは、中村英雄会長、富士貴子理事の二人が登壇し、「流域で手を取り合い、次の50年、100年先の子ども達に吉野川の豊かな恵みを引き継げるよう引き続き取り組みたい」と力強く語りました。

式典の最後は、水源、受益地の関係者の手でくす玉を割って50周年を祝いました。また、この日、土佐町の早明浦ダム直下ふれあい広場では交流イベントも開催され、阿波おどりや花火大会などが華やかに繰り広げられました。



NPO法人 新町川を守る会 会長 中村英雄さん 「下流域はダムの恩恵を受けてきた。上流の振興に貢献していきたい」

NPO法人 新町川を守る会 理事 富士貴子さん 「吉野川の豊かな恵みを未来へ引き継げるよう取り組んでいきたい」



「水の恩恵」にちなんだパネル展示も開催。吉野川交流推進会議も、吉野川の恵みや会の活動を紹介します。パネルを展示しました



早明浦ダム直下のふれあい広場で行われた交流イベント。徳島の阿波おどり、高知のよさこいが披露され、秋空にお囃子と掛け声が響きました



本山町プラチナセンターで開催された式典のもよう